

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	安藤 貴世		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 5		
講義室	1311	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5-J [創造的挑戦力・達成力] コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイディアを革新的かつ創造的に結合し、リスクをとりながら、結果にむすびつけることができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L [協同力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M [省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） E1 学識と専門技能（25%） I1 理解・分析と読解（5%） J2 創造的思考（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（20%） M1 総合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	2006年から2009年まで3年間、外務省において任期付き職員として勤務し、外交実務を経験しました。 国際刑事裁判所の設立に際し、日本政府代表随員として、国連において開催された設立準備委員会と締約国会合に参加しました。 また、2016年より現在まで、法務省難民審査参与員として難民認定審査の業務に携わっています。 これらの実務上の知見と経験を活かし、実際に日本と諸外国との外交関係が形作られていく様子や、現実の国際的な諸問題の解決における国際法の適用、日本における難民認定の実情などにも触れつつゼミナールの指導を行います（第1回、第15回）。		

成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期	
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。授業形式は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（ライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード 国際法・国際社会における法の支配	
授業の趣旨	■副題 国際法による「法の支配」と危機管理をめぐる国際問題 ■授業の目的 本ゼミナールでは、危機管理に関わる国際的な諸問題から、受講者が自らの関心に基づきテーマを設定し研究を行うことにより、国際法を通じたそれら諸問題の解決および国際社会における「法の支配」について理解を深めることを目的とします。 ■授業のポイント 今日の国際社会は、日々変化し、一国のみでは対処できない様々な「危機」に溢れているとともに、あらゆる分野において国際法により秩序づけられています。国家間関係を規律する「国際法」は、各国家の主権と、国際社会において実現すべき価値とのバランスを取りつつ、こうした危機への対処枠組みを構築してきました。本ゼミナールでは、受講者の関心に沿って、国際安全保障、国際犯罪、人権の国際的保障、地球環境問題、貧困問題、災害など、危機管理に関わる国際的な諸問題を対象としつつ、国際社会における国際法の役割、位置づけについて学修し、理解を深めていきます。	
総合到達目標	■危機管理をめぐる国際問題について、国際法を手掛かりに説明できる。 ・国際法分野における研究を進めるにあたっての文献・資料等の検索、収集方法を身に付ける（第1回～第15回）。 ・各自の関心に沿った研究テーマを設定し、国際法が如何にして国際的な諸問題や危機への対処枠組みを構築しているかについて検討し、考察する姿勢を見に付ける（第1回～第15回）。 ・これまでの研究成果を論文の形式にまとめ、卒業論文を完成させる（第1回～第15回）。	
成績評価方法	■授業におけるプレゼンテーション 2回（20%）：適用ルーブリック E1、I1、K1、K2、M1 （評価の観点） 教員とのフィードバックを踏まえた論文の草稿に基づき、自らの研究について論理的に報告ができていないかについて、報告資料の内容やプレゼンテーションの手法なども含めて評価します。 また、卒業論文報告として、自らの研究の概要について明解な報告ができていないかについて、報告資料の内容やプレゼンテーションの手法なども含めて評価します（卒業論文完成後に実施します）。 （フィードバックの方法） 報告内容について解説するとともに、評価の観点に基づいて報告後に講評を行います。 ■授業参加度 毎回（20%）：適用ルーブリック B1、C1、E1、J2、I1、K2、L1、M1 （評価の観点） 他者の報告に対する自らの疑問・考察などを積極的に発言しているか、他者から示された意見や疑問に対し、自ら考えフィードバックを行っているかなど、演習授業の構築への参加について評価します。 （フィードバックの方法） 毎回の授業のまとめの際に、各自の議論への参加について講評します。 ■卒業論文（60%）：適用ルーブリック B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） 論文の構成（論理的な構成に基づく論文となっているか）、研究の内容（先行研究を踏まえ、独自性のある研究内容となっているか）、分量（規定の字数を満たしているか）、誤字脱字等が無い、教員の指導・他ゼミ生の意見を取り入れた内容となっているか、などの点について評価します。 （フィードバックの方法） 評価の観点に基づいて、完成した卒業論文について講評を行います。	
履修条件	3年次までに国際法を履修済みであることが望ましいです。	
履修上の注意点	演習形式の授業ですので、臆せず自分の意見を述べ、積極的に議論に参加して下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要

	授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 担当教員の実務経験を踏まえて、ゼミナールⅣの導入として、具体的事例への国際法の適用について解説します。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 授業の狙いや内容などについて確認する。
2	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（1） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
3	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（2） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
4	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（3） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
5	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（4） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に

	基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
6	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（5） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
7	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（6） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
8	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（7） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
9	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（8） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分）

	報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
10	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（9） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
11	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（10） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
12	①授業テーマ 関連資料の分析、研究内容の具体化、論文の草稿に関する報告（11） ②授業概要 卒業論文のテーマに関する関連資料の収集・分析を行ったうえで、研究内容を具体化する。事前にゼミ担当教員とやり取りした論文の草稿をもとに、研究および論文執筆の進捗状況について報告を行う。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 自身の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、研究内容を具体化したうえで卒業論文の執筆を進める。規定の期日までにゼミ教員に草稿を提出し、ゼミ教員による指導に基づき執筆内容について加筆・修正を行う。その草稿をもとに、授業での進捗状況報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、論文の執筆内容について加筆・修正を行い、卒業論文完成に向けた作業を進める。
13	①授業テーマ 卒業論文完成報告（1） ②授業概要 完成した卒業論文に基づき、ゼミナールでの2年間の研究成果を説明する。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文概要報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、卒業論文集作成のための論文内容の微修正、誤字・脱字の修正などを行う。
14	①授業テーマ 卒業論文報告完成（2） ②授業概要 完成した卒業論文に基づき、ゼミナールでの2年間の研究成果を説明する。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、

	M1)。 ③予習 (120分) 卒業論文概要報告のための準備を行う。 ④復習 (120分) 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、卒業論文集作成のための論文内容の微修正、誤字・脱字の修正などを行う。
15	①授業テーマ 卒業論文完成報告 (3) と総まとめ ②授業概要 完成した卒業論文に基づき、ゼミナールでの2年間の研究成果を説明する。報告内容について受講者全員でディスカッションを行う。さらに2年間のゼミナールでの学修について総括する (B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1)。 担当教員の実務経験を踏まえて、ゼミナールⅣさらに2年間のゼミナールのまとめとして、国際社会における国際法の適用・位置づけについて総括します。 ③予習 (120分) 卒業論文概要報告のための準備を行う。 ④復習 (120分) 報告および授業でのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、卒業論文集作成のための論文内容の微修正、誤字・脱字の修正などを行う。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2 (RMGT1215・RMGT1216)」・「危機管理基礎演習Ⅰ・Ⅱ (RMGT2601・RMGT2602)」・「ゼミナールⅠ～Ⅲ (RMGT4601・RMGT4602・RMGT4603)」と関連します。 ②講義科目については、国際法 (RMGT3451)、人権論 (RMGT3423)、国際人道法 (RMGT3453)、安全保障論2 (国家安全保障) (RMGT3554)、国際協力論 (RMGT3560) と関連します。
教科書	岩沢雄司ほか編『国際条約集2022年版』（有斐閣、2022年）を持参して下さい。昨年購入済みの場合は、2021年版でも構いません。
参考書・参考URL	各回の授業において適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 水曜5限（予定）。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取って下さい。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ20%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ20% ■危機管理学と法学とのバランス 法学50%：危機管理学50%

